

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大戸小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	引き続き基礎的・基本的な知識・技能を習得し、「確かな学力」の育成を図る。特に国語と算数は、継続的に問題演習やドリル学習等に取り組む。一人ひとりに合った課題に取り組ませたり、課題をスモールステップで設定したりすることで、子どもたちの意欲が高まるような声掛けや励ましを行い、児童に達成感を味わわせて次の学習意欲につなげられるようにする。また、タブレットによるドリル学習については家庭とも連携し、個別最適な学習につながるよう効果的に活用していく。
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査の結果から「話すこと・聞くこと」「書くこと」に課題があることがわかった。一朝一夕に習得できる領域ではないので、6年間の計画的、かつ継続的な取り組みが必要である。学習活動中の効果的な場面で交流活動を取り入れることで、自分の考えをもち、適切に伝え合う機会を設けるようにする。また、従来の紙に書く活動とタブレット入力による「書く」活動をバランスよく取り入れることで、児童の書く力を向上させていく。
主体的に学習に取り組む態度	児童が主体的に学習に取り組むために、児童自身が学習計画を立て、課題を理解または自己決定できるような場を設けるよう、校内で共通理解を図る。タブレット操作に対して意欲的な児童が多いので、授業での利用やスクールダッシュボードなど、日常的かつ効果的に扱う学習環境を整備していく。教科への興味関心が高い傾向にあることが調査結果から見られるので、引き続きユニバーサルデザインを取り入れた教育環境を整備することで、学校教育目標「笑顔あふれる大戸小」にせまりたい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	・当該学年で習得すべき漢字の読み書きおよび算数の計算を確実に習得させる。(自校テストで80%以上)	⇒ 授業、朝学習の時間、家庭学習において、国語・算数におけるワークシートやドリル学習、「ドリルパーク」や「スタディサプリ」を活用した取り組みを継続的に行う。また学習履歴を振り返ることで児童が自分の学習内容の理解を把握できるようにする。
思考・判断・表現	・R4年度さいたま市学習状況調査自校結果より、本校の課題と明らかとなった国語「話すこと・聞くこと」の平均無解答率を1割下げる。	⇒ 「話すこと・聞くこと」に関する学習活動を国語だけでなく、全教科にわたって意識的に取り入れるようにする。特に児童同士が意見を交流する学習活動を設けることで、自分の思いや考えを適切に伝え合うことができるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	・自校学校評価の児童アンケートにおいて、「進んで学習をしている」の項目を肯定的に答えた値を向上させる。(80%以上)	⇒ ミライシード内の「オクリンク」「ムーブノート」を活用し、個々の意見を把握しやすくするとともに、児童の学習意欲を高めていく。また、個で考えたことを伝え合い比較・検討する、主体的・対話的で深い学びの場を設定する。

<小6・中3> (4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	年間を通して、朝学習などの時間を活用し、漢字・計算をはじめとしたドリル学習を行った。毎学期末に行う「漢字50問テスト」や国語の「100検定」、社会の都道府県クイズなど、各学年で繰り返し取り組み、さまざまな知識を習得することができた。また、タブレットを活用した問題演習は、児童が意欲的に取り組んだので、技能の向上につながった。	B
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査における国語「話すこと・聞くこと」の無回答率は3、4、5年生で市の平均値を下回ることができた。授業の様々な場面において交流活動を取り入れることで、自分の意見や考えを積極的に伝え合い、学習に主体的に取り組めた。正答率については、市平均よりも3pt以上高かった学年があった一方で、市平均を下回った学年もあった。	B
主体的に学習に取り組む態度	学校評価の児童アンケート(11月実施)において、「学習に意欲的に取り組んでいる」と肯定的に答えた児童は98%であった。ドリル学習で自分の課題に合った問題を選んで取り組んだり、「オクリンク」「ムーブノート」で自分の意見や作品を伝える活動に主体的に取り組んだりできた。また、ユニバーサルデザインを取り入れた授業や環境づくりを校内研修として行ってきたことで、すべての児童が安心して学びに向かうことができた。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	「知識・技能」において、全国平均より国語±0pt、算数-4ptであった。算数では加法と乗法の混合した式や分配法則を用いて答えを求める計算の正答率が低かったことから、基本的な計算だけでなく、正しい順序や方法を理解して複雑な計算にも正答できるような力をつける手立てが必要だということがわかった。
思考・判断・表現	「思考・判断・表現」において、全国平均より国語-5pt、算数-3ptであった。国語「話すこと・聞くこと」領域において課題がみられた。自分の考えをまとめる、話題の中心を捉える問題の無解答率が高いことから、要点をまとめて書いたり、聞いたりすることを苦手とする児童が多いことがわかった。
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」と「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が91%で、全国平均を大きく上回った。主体的に学習しようとする児童が多数いるので、子ども主体の学びとなる授業が継続できるよう、引き続き努めていく。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析 (令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。)			
小3	R5年度さいたま市学習状況調査「思考・判断・表現」において、市の平均より国語+3pt、算数+2ptと良好であった。国語では文中の主語と述語の関係を理解する問題に課題がみられた。算数では、単位の関係についての理解に課題があった。教科への興味関心については、国語・算数とも肯定的な回答の割合が77%以上と高い傾向がみられた。	小4	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語+2pt、算数+4ptと良好であった。算数の小数の減法の計算において課題がみられた。昨年度課題がみられた我が国の言語文化に関する問題では、類似問題での比較より、正答率の上昇がみられた。
小5	国語では、「話すこと・聞くこと」領域の、聞きたいことの内容を捉え、自分の考えをもつ問題に課題がみられた。理科の実験結果の適切な記録方法を選択する問題の正答率が高く、予想、結果、考察の流れを重視した成果がみられた。教科への興味関心については、肯定的な回答の割合が国語・算数が約80%と昨年度の4年生との経年比較で上昇した。社会・理科も約85%と高い傾向が見られた。	小6	国語では「話すこと・聞くこと」領域の、話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をする問題に課題がみられた。算数では「データの活用」領域の問題の正答率が低く、資料を正しく読み取ることに課題がある。教科への興味関心については、国語・社会・理科の肯定的な回答の割合が75%以上と高かったが、算数が約60%と低かった。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 全国学力・学習状況調査の結果から「数と計算」の領域に課題が見られたため、引き続きワークシートやドリルのほか、タブレットを活用した取り組みを行い、基礎的・基本的な知識・技能の一層の充実を図る。
思考・判断・表現	分析で明らかになった課題である、国語「話すこと・聞くこと」の平均無解答率を市平均値以下とする。	⇒ 話し合う視点を明確にした交流場면을意識的に設定し、自分の思いや考えを適切に伝え合うことができるようにするとともに、得られた考えを整理して書いたり話したりする活動を設定する。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 全国学力・学習状況調査の結果から、6年生において主体的に学習に取り組む児童が9割程度いたので、6年生の授業展開を全校で確認し、良い部分は他学年でも取り入れるようにする。